



ニュース 20号

Information, Communications, and Attention-Related Empowerment Center for the Challenged
in Hokkaido 障害者のための情報と通信と人々の理解に関するエンパワーメントセンター北海道

文教大作業療法学科で

6月22日北海道文教大学作業療法学科でiCareほっかいどうの活動とコミュニケーション支援の事例についてお話をさせていただきました。今年で3年目になります。また2コマ目には簡単なスイッチとブザーを1個ずつ作成しました。この頃にはみんな緊張も取れていい顔で笑ってくれました！皆さんの笑顔は必ずや患者さんを励ますでしょう。頑張り北海道文教大学OTのたまご達！



札幌市パソコンボランティア対象に研修会



6月27日と28日、札幌チャレンジドの事務所で札幌市パソコン派遣ボランティアの皆さんを対象に意思伝達支援について研修会を行いました。iCareほっかいどうの活動紹介、伝の心の操作、ハーティリーダーの説明に加えて、ALS協会北海道支部の深瀬支部長においでいただいて、ALS患者の生活、課題などについてお話いただきました。娘さんと口文字で会話する深瀬さんの様子を見て、参加者は驚きと感嘆に包まれていました。

研修会のご案内

9月10日(木)に意思伝達支援機器の制度について研修会を行うことになりました。札幌市や更生相談所の方にお話しいただきます。札幌市民ホール(旧市民会館)の会議室で18時半～を予定しております。ぜひ、今から予定していただきますよう、願い致します。詳細はまたご案内致します。

ファイターズ投手陣がiCareを支援

日本ハムファイターズのリリーフ投手陣が、ホールド・セーブひとつにつき1万円を iCare ほっかいどうに寄付して下さることになりました。

7月10日にその記者発表があり、ALSの患者さんと会見会場をスカイプで結びました。稲葉篤紀さん、キャプテンの宮西選手も参加され、球団の社会貢献活動をアピールされていました。

宮西投手は「リリーフ投手というのは、前後の投手の思いをつないでマウンドに上がります。意思伝達装置を使う方々の心の伝達をサポートしていくことは、自分たちの普段の役割に通じるものがあります」と言われています。寄附以外にも患者さんたちと交流できるようなイベントを考えて下さるそうです。

もっともっと、ファイターズを応援しなければなりませんね。



スカイプで記者会見に参加した今野さん



日本ハムは10日、札幌ドームで会見を開き、NPO法人北海道野球協議会への加盟や、救援陣が成績に応じて障害者支援団体に

日本ハムは以前から、スポーツを通じた社会貢献活動を「CSR活動」として取り組んできた。今回「SCC活動」と名称を変更し、若年層の野球人口減少や体力低下などの課題

「北海道の野球界一つに」

**日本ハム 道野球協加盟を発表
救援陣、ALS支援に寄付も**

解決に向けて、運動機能育成や指導者の養成に「一層力を入れることとした。日本ハムの2重と道内の大学生選抜との交流試合も検討している」という。

協議会加盟は、プロとアマが個別に対応してきた活動を統合し、効果的に活動するのが狙い。協議会の柳俊之理事長は「プロとアマ間のしがらみは野球に取り組み子供たちには関係ないこと。北海道の野球界が一つになれば」と語った。その上で「プロの力をお借りし、若年層の

日本ハムは以前から、スポーツを通じた社会貢献活動を「CSR活動」として取り組んできた。今回「SCC活動」と名称を変更し、若年層の野球人口減少や体力低下などの課題

日本ハムは以前から、スポーツを通じた社会貢献活動を「CSR活動」として取り組んできた。今回「SCC活動」と名称を変更し、若年層の野球人口減少や体力低下などの課題

北海道新聞

特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう

〒060-0061 札幌市中央区南1条西8丁目 SITY ビル 6F

T)011-222-4462 F)011-596-8794 jimu@icare-h.org <http://icare-h.org>